

バンディングかわら版（第8号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）をつけた野鳥を放鳥し、のちに同じ鳥が再発見（回収）されることで、各個体の移動を調べ、その生態を明らかにする調査です。

世界各国で行われており、もっとも歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では1924年に開始されました。現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）の協力により実施されています。



野鳥につける足環。足環をつけることを「標識」する、その個体が再発見されることを「回収」と言います。

注）この調査は、野鳥を捕獲するための法的な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。

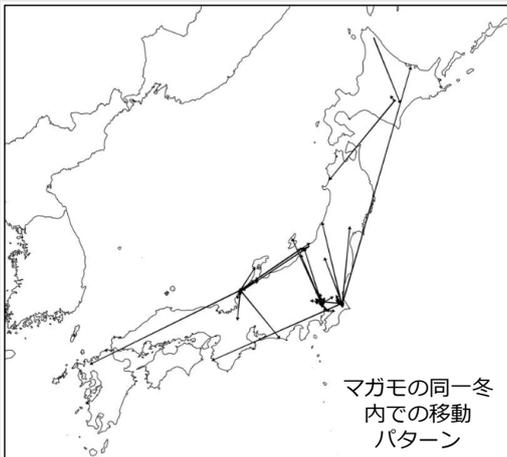
標識調査からどんなことがわかるの？

冬の間のマガモの移動特性が明らかに

マガモは日本におけるカモの代表的な種のひとつです。北海道や東北の一部で繁殖している個体もいますが、国内に生息する大多数は越冬のために飛来します。カモ類は、鳥インフルエンザを媒介する可能性があるため、その移動特性の解明が必要とされています。今回は、標識調査から明らかになった、ひと冬の間のマガモの移動特性をご紹介します。



マガモ（写真提供：森本 元）



約60年間(1961-2021)のデータから、10月-3月にかけてのひと冬の間の移動パターンを調べました。対象となった92個体（放鳥は10月-1月、回収は12月-2月）は8県で放鳥され20県で回収されていました。

図示できない短い距離(数km)を移動する個体もいる一方、長距離を移動する個体もいました（左図）。短時間で長距離を移動することもあり、例えば移動距離2位の個体は648km(石川県-佐賀県間)をわずか8日*で移動していました。

*なお距離1位の個体は、959km先で（短期間でなく）100日後に回収されています。

マガモには、ひと冬の間に、固定した越冬地周辺だけで短距離移動している個体がいる一方で、長距離移動する個体がいることが分かりました。

より詳しく知りたい方は令和4年度調査報告書 p.23-35の本調査結果をご覧ください。

(<https://www.biodic.go.jp/banding/report.html>)

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
山階鳥類研究所 鳥類標識センター
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342
E-mail: BMRC@yamashina.or.jp

どんな鳥がどのくらい再発見（回収）されているの？

足環をつけて放たれた鳥が、2021年に別の場所で回収された例数は94種1,315例（前年より49例増）でした。このうち国内で足環をつけ、国内で再発見された例数の上位3種は、オオジュリン（386例）、ユリカモメ（199例）、オナガガモ（149例）です。

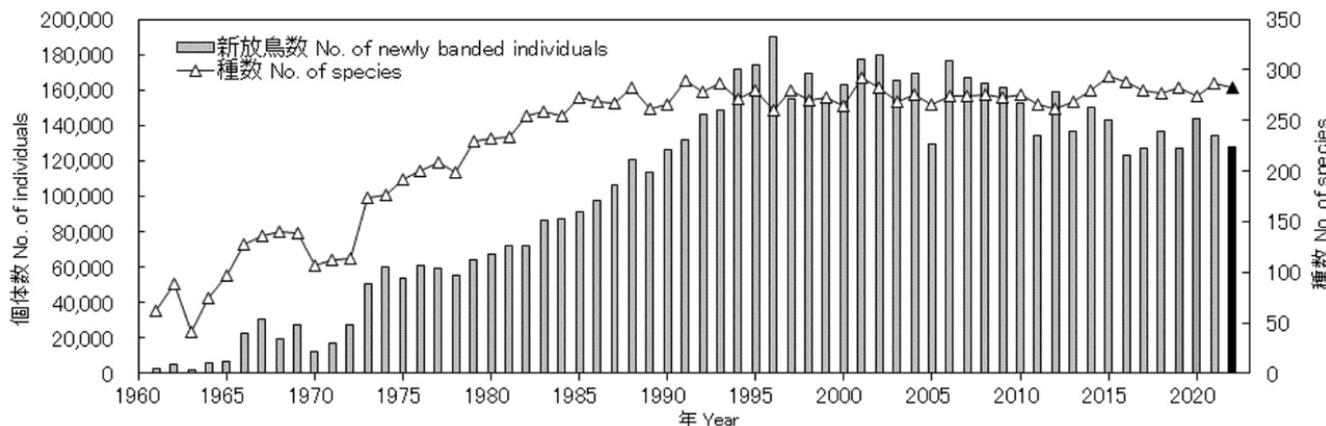
1961年から2021年までの累計例数は、268種、43,188例となりました。



日本の鳥類標識調査は2024年で100周年を迎えました

鳥類標識調査は、日本でもっとも長く継続されている自然環境調査の一つ

鳥には国境がありません。国内外の移動を調べる鳥類標識調査は、欧州で開始された後に日本に伝わりました。日本の標識調査はちょうど100年前の1924年に開始され、中断もありましたが、20世紀半ばから安定した調査体制を確立して現在に至っています。



標識調査で放鳥された新放鳥数と種数の経年変化（1961年以降）

標識調査の特徴と調査体制の構築・維持 一長期に広域に行われるようになりました一

標識調査は、初期は山階鳥類研究所職員など限られた人材によって一部地域で実施されていましたが、捕獲技術を身に付けた理解あるボランティアによる調査体制を、1970年代に構築しました（通称：ボランティアバンダー）。これにより、全国規模に近い調査が確立されてきました。人員の増加に伴い放鳥数も増え、1990年代からは、年間放鳥数10万羽超の安定した調査結果が維持されています。

長期に継続的な調査により個体数の経年変化や、移動先が徐々に明らかになり、「カシラダカの減少」や「スズメの減少」の解明、「ツバメの越冬地」の解明、といった多数の成果が生まれています。

途切れのない、毎年蓄積されるデータでしか明らかにできないことがあります。調査規模を維持した持続的な標識調査が重要です。引き続きのご理解・ご協力をお願いいたします。

標識調査の主要な成果や活用は、以下の環境省ホームページに掲載されています。より詳しく知りたい方は、以下のURL先をご覧ください。
<https://www.biodic.go.jp/banding/utilization.html>